

CASE 1

# 農家主婦開発の商品が人気

「鹿角の名産を年間通して提供できる商品に」と米田敦子さん



【レディースファーム】

〒018-5201 秋田県鹿角市花輪字新斗米 55 番地 / TEL・FAX0186-25-2209  
E-mail: amaita@ink.or.jp



女性ならではのセンスを生かして  
地元の名産を使った加工食品を開発

農家の女性の手作りスイーツが大人気

平成12年、「農家の女性が、農閑期にも収入が得られるような雇用を生み出したい」との思いから、農家の主婦10人で始めた「レディースファーム」。手始めにりんごや桃のジャムを販売したのを皮切りに、以降は商品開発に力を入れ、鹿角産りんごを贅沢に使ったアップルパイや、北限の桃が丸ごと味わえるコンポートなどを発売。今や県内のみならず、全国からの注文が絶えない。

「畑の真ん中の直売所に「わざわざ足を運んででも買いたい」と思われるような名物を作りたい」と米田代表。

平成21年、新聞で「農家の女性の手づくり」と紹介されたアップルパイ「極」が大評判に。その後、北限の桃を使ったコンポート、ムーストルテ、桃カレーなど、矢継早に新商品を発表してきた。

1つの商品を構想し、実際の商品化までの開発期間はおよそ2～3年。コンポートの開発では桃の色が変色してしまったり、桃カレーの開発では高圧調理する段階で思った味が出なかったりと、苦労は絶えない。それでも、様々な知恵や工夫で乗り越え、多くの人気商品を生み出してきた。

## 隠れた名産「とんびまいたけ」を再発見

期待の新商品は「とびたけのコンフィ」。これまで地元でしか食べられていなかった「とんびまいたけ(=とびたけ)」を、食べやすく加工した商品だ。当センターのよろず支援拠点の助言を受け、従来の醤油味の甘辛煮とは違う、多くの人に受け入れられる商品を目指した。オリーブオイル、にんにく、唐辛子で味付けされた「とびたけのコンフィ」は、香りと歯ごたえがよく、ワインやパスタにもよく合う。また、7月に大量に収穫されるとんびまいたけを、コンフィに加工することで長期保存ができ通年販売が可能になった。

農家の女性たちの活躍の場でもあり、地域の農産物のPRにも貢献するレディースファーム。今後の動向に注目だ。



おしゃれな味の「とびたけのコンフィ」。道の駅「あんたらあ」など鹿角市内の直売所のほか、秋田空港おみやげ広場、トピコ1Fみんなのやさしい畑などでも購入できる。

### 事業概要 秋田県よろず支援拠点

秋田県内の中小企業・小規模事業者のための経営相談所として、売上拡大、経営改善など経営上のあらゆるお悩みの相談に対応します。コーディネーターを中心とする専門スタッフが適切な解決方法を提案します。

お問い合わせ あきた企業活性化センター/秋田県よろず支援拠点 (018-860-5605)まで。

CASE 2

# 消費者に届く商品づくりを

「売れる商品づくりをきちんとサポート」とたなかのりこさん



【株式会社 ワンダーマート | <http://wandama.pepper.jp>】

〒013-0071 秋田県横手市八幡字八幡 147 / TEL0182-38-8132  
E-mail: nori\_ta@wandama.pepper.jp  
東京 Office / 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 1-6-1 宝ビル 8F

平成25年創業の「ワンダーマート」はフードコーディネーター1級の資格を持つたなかのりこ代表を中心に女性社員で構成された会社。「人材育成とモノづくり」を軸にしながら、地元・秋田や宮城など東北を中心に活動している。手がけているのは地元の食材を消費者の望む商品に仕上げるまでのプロデュース。「消費者のニーズに合った商品を安定的に売り続けるシステムをつくり上げることが大切だ」とたなかさん。

「ワンダーマート」が大切にしているのは、情報発信&収集のための基地づくりだ。そのきっかけは、平成26年に当センターの創業支援室に入居して秋田市に拠点を設けたことに端を発している。この時は県内でのネットワークづくりを考えての決断だったという。その後、アンテナを高く掲げることを目的に東京に事務所を設けた。「地元



食や商品開発などのテーマで講演会や勉強会で講師を務めることも多い。



プノンペンにオープンした「Norico Cafe」。秋田情報を発信するアンテナショップとしても期待される。

還元するための人脈や情報をどう集めるかが大切ですね」とたなかさん。

そして、今年5月、新たなチャレンジとしてカンボジアの首都プノンペンに「Norico Cafe」をオープン。このカフェを秋田の文化や郷土色を伝える拠点にするという目的を持っている。

CASE 3

# 道の駅を飛び出し、販路拡大を

「豊かな横手ブランドを全県に」と統括リーダー樋渡直さん



再訪 【株式会社 十文字リーディングカンパニー | <http://www.city.yokote.lg.jp/kanko/page300164.html>】

前回掲載 2009年2月号 〒019-0529 秋田県横手市十文字町字海道下 21-4 / TEL0182-23-9320・FAX0182-42-3847  
E-mail: jumonji-michi@za.wakwak.com  
よこて旬菜市場 / 〒010-0913 秋田県秋田市保戸野鉄砲町 1-38 ノーベル保戸野 1F

今年で開業10周年を迎える「道の駅十文字 まめでらが〜」の運営を担う「十文字リーディングカンパニー」。

開業当初から、横手市を中心に県南の旬の農産物を豊富に揃えた道の駅として注目されてきた。特に、初夏のサクランボから秋のブドウ・ナシ・リンゴまで、果樹王国横手ならではの品揃えでも人気が高い。多彩な商品の魅力を伝えるための、元気で親しみやすい接客を含めた人材教育にも力を入れている。

この10年、積極的に進めてきた事業の一つが販路拡大。「道の駅を拠点として充実させると同時に、横手ブランドを“出前”することで認知度を上げ、ファンを増やすという目標を掲げてきました」と語るのは統括リーダーの樋渡さん。

開業当初に注力したのは東京や仙台など県外へのPR。



県南の青果物を旬替わりで販売している農産物直売施設。季節ごとに売り場の雰囲気が変わる。



秋田市に平成27年にオープンさせた直営の「よこて旬菜市場」。横手の新鮮食材が並んでいる。

現在は秋田市・大仙市・湯沢市など、中央・県南エリアへの定期出店も実現。また、平成27年、常設店舗「よこて旬菜市場」を秋田市に開設したのも大きな一歩だ。今後も常設店舗および定期出店を県内で拡充していくことを目標にしている。横手ブランドの活路を開く「飛び出す道の駅」に期待したい。